

〔第 2 回 青谷地域振興会議 委員提案〕

⊗ テーマ ⇨ 「認知症」を支える地域づくり事業を 青谷町全域で  
～ 認知症の人も そうでない人も みんなが安心して笑顔で暮らせる ○○ に ～

注) ○○ ⇨ 青谷町内自治会単位の町や集落、すべてで取り組みを

⊗ 提案の理由

- 認知症の人やその家族を支える「地域の力」の必要性は、説明不要の時代に入っています。専門機関の支援だけでなく、日々を暮らす「生活地域」に於ける「支える力」が、今、待たれていると考えます。
- 当該家族でなくても、日常生活の場で、認知症の人と触れあう機会が増える時代になっています。青谷町にあっては、高齢化率が抜きんで高く、その増え方も顕著なものがあると思われれます。これは、近隣住民に、「不可解な言動」「当人は、おかしいと自覚できない言動」にどう向きあっていくか、共にどう暮らしていくかという新たな課題、付き合いを続けていく上での壁を生じさせています。
- この課題や壁の克服を、住民個人まかせ、成り行きまかせにして過ごしているならば、住民のあいだに「関わりを避ける」傾向が生じる事は容易に推測されます。この付き合いの中で、住民にかかる戸惑いや悩みは、「家族」の比にはならないにしても、大きなものがあり、ストレスも恒常的なものになってきています。地域で頼るべき近隣住民を支えるという視点も、今では必要になっていると考えます。
- ⊗ 当人や家族が支えられ安心して暮らせる地域になり、同時に、日々を暮らす近隣の人たちも、協力体制を組み、情報や知識、支援の方法が学べ、共有出来、共に支えられ、みんなが安心して暮らせる地域づくりを進める事業、この事業を青谷町の隅々にまで拡げる事が急がれていると考え、提案いたします。

⊗ 小地域（単位は集落や町。状況により拡大や 縮小も）において取り組みたい事例

- 1、教室・講座、経験交流会等、話し合い・勉強会の開催 (別紙参考資料⇨講師へ依頼内容例)
- 2、「Aさんを見守る」等の支援体制をつくる (家族の意向、症状の内容・程度を勘案し判断)  
参加者が不特定多数の研修会では、プライバシー等の制約があり、「一人の人」の支援体制を組むまでは出来ません。「一人の人」の支援を目的に、「家族」、直接関わる近隣の人、及び、保健士等専門家がメンバーに入り構成する「支援者会議」立ち上げ等、支援体制づくりを進める取組み
- 3、小地域における世話役やリーダーづくり ⇨ 共に暮らす誰かの背中を押す、そして、協力する
  - ① 研修会等の世話役は、個人・団体だれでも可能 ⇨ お願いの働きかけ、支援
  - ② 支援体制づくりの世話役は、誰にでもとはいかない難しさ ⇨ 根回し的支援
  - ☝ ◎「当該家族」が信頼する近隣の人 ◎民生児童委員 ☝ ◎自治会長(区長) ◎専門家

⊗ 小地域における取り組みを進めるための 鳥取市の支援・施策に対する要望

- 1、認知症への不安や偏見防止のための啓発活動・情報発信、及び、市民への到達度合の検証
- 2、「がん検診」と同様、「認知症検診」(ケア付き検診)の普及・制度化 (青谷町で先行実施を是非!)  
早期発見! 早期治療! ⇨でも、どこに行けば発見出来る? 判定がこわい⊗ (Ⓜ 高齢化率が高い)
- 3、小地域における取り組みを進めるための事業実施計画の策定 (青谷町版の先行策定を!)  
◎事業実施計画に、組入れを要望する内容
  - ①小地域において取組める事例、取組みが望まれる事例 ②小地域における取組みへの支援策
  - ③研修内容と講師紹介の情報 ④取組みへの助言等支援を求める際の相談窓口・連絡先の周知策
  - ⑤小地域におけるリーダーや世話役づくりのための支援・施策
  - ⑥関係機関、各種組織・団体や民生児童委員の会、自治会長会(区長会)等との連携策
  - ⑦地域防災計画・避難計画作成にあたり、「認知症」に関連する配慮事項の提起 (以上)

## [参考資料]

### ◎ 大坪老人クラブ 緑寿会 研修 (研修希望内容)

平成 29 年 2 月 2 日 (木) (時間 30 分程度)

研修テーマ 認知症の人と 日常生活の中での付き合い方

～ 認知症の人も そうでない人も みんなが笑顔で暮らせる大坪になるために ～

#### I、認知症とは、いったい何なのか？

「認知」？「記憶」？「心」？「認知症」？・・・「理解出来ない行動はなぜ？」

#### II、認知症予防、認知症早期発見、認知症早期治療について

- 1、認知症にならないのが一番 → 予防の実践家に！
- 2、なったら、症状の進行を止める → 元気で楽しい人生確保のため、遠慮も怖がりも不要！  
早期発見！ 早期治療！
- 3、なるなら“愛される認知症人間”に → 穏やかで美しい心の人なら なれるはず！

希望 ☒ 次の内容を重点にした研修に

#### III、大坪に住む人が、日々を共にするこの地域で認知症の人と、どう暮らしていくのが理想？

介護経験のない、知識も技能も持たない一住民が、戸惑いや嫌悪感に陥り、付き合いを避けた  
いという気持ちになることなく、また、自分達の生活の犠牲や負担感を減らせるような、日々の  
付き合い方や、接し方での留意点について学習したい

#### 1、介護をされている方々が持っておられる、近隣の人たちへの要望内容は？

家族を介護しておられる方から「周りの人たちの理解がほしい」の言葉を聴くことがあります  
が、具体的にどのようなことを要望されているのかを知りたい。

#### 2、認知症かどうかを、住民として知る方法は？ また、知らなければいけないのか？

#### 3、戸惑いの中で、どう対応（対話や行動等）すればいいのか？

「いつも同じことを繰り返し言ったり、聞いたりする」

「話に同意しなかったり反論すると、必死に話を繰り返し、終わらない」

「自分本位の会話しか出来ないし、自分本位の振る舞いしかない」

「こちらの言うことを聞いてもらえない」 「教えてあげたいと思っても、とおらない」

「話をしている人が誰か分かっていない。話の後、別の人に名前を聞いている」

「昨日の話がチャラになっている」 「声かけしていいのかわかるか迷う」

「無断で他人の家に入りこむ」 …… 等の事例が、会員から聞かれる

長年、大坪で一緒に暮らしてきた人であり、先輩を子ども扱いにするような事も出来ず、  
今までの関係を継続したいという思いの中で、変化が生じた人とどう付き合っていきたい  
のか、悩みを持つ会員は多い

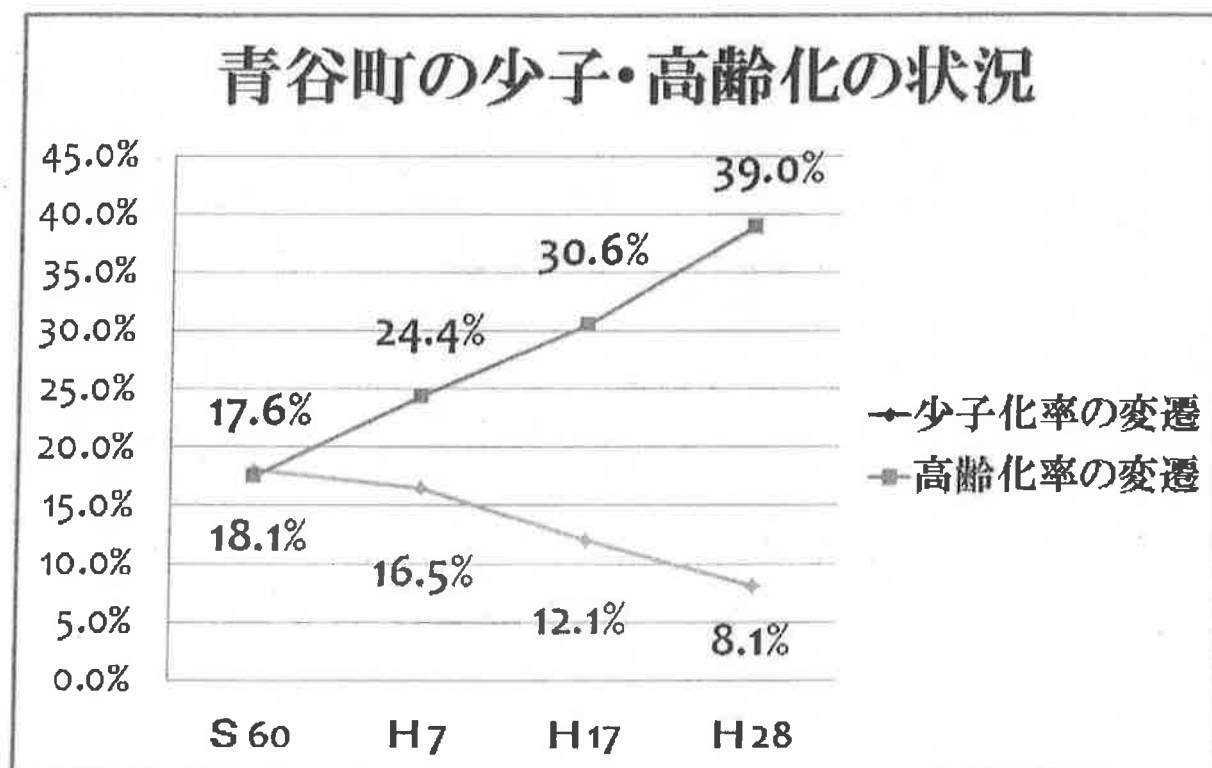
～ 面倒だし 関わりたくないという会員の気持ちをプラスに転じ、  
認知症問題で「地域の力」の一翼になれる事を 目指す研修会に ～

5/24 (水) 青谷町地域振興会議 委員提言

テーマ・・・「認知症」を支える地域づくり事業を 青谷町全域で

【西部地域 認知症高齢者の状況】 H27.9.30 現在

	人口(A)	65歳以上高齢者人口(B)	高齢化率(B/A)	要介護認定者数(C)	要介護認定率(C/B)	認知症高齢者※
青谷	6,487	2,445	37.7%	548	22.4%	470
気高	8,951	2,774	31.0%	571	20.6%	486
鹿野	3,890	1,321	34.0%	262	19.8%	205
鳥取市	192,155	50,598	26.3%	10,138	20.0%	8,140



●全国的に、高齢者の4人に1人が認知症の方またはその予備軍と言われております。高齢化に伴い、要介護認定者数、認知症高齢者数はさらに増加していくと考えられております。特に、青谷町の高齢化率は高くなってきており、実際、H28年度末の時点では39%を超えました。

※認知症高齢者数は、要介護認定者の認知症高齢者の日常生活自立度Ⅰ以上の数

## 鳥取市の認知症施策について

本市では、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指して、国が進める認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)に沿って、以下の認知症施策に重点的に取り組んでいます。

### 認知症施策 5つの柱

- ① **認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進**
  - ・ 認知症サポーター養成事業講座の開催
  - ・ 地域での認知症に関する普及・啓発
  - ・ 認知症フォーラムの開催
  - ・ 認知症予防教室の開催
  
- ② **認知症の早期発見・早期対応**
  - ・ 認知症初期集中支援チームの設置
  - ・ 認知症地域支援推進員による相談・支援
  - ・ 認知症疾患医療センターや専門機関との連携
  - ・ 「認知症相談安心ガイドブック」の活用
  
- ③ **認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進**
  - ・ 認知症カフェの開催支援
  - ・ 認知症高齢者等ご近所見守り応援団
  - ・ 認知症相談支援事業
  - ・ 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業
  - ・ 徘徊高齢者位置検索システム利用支援事業
  
- ④ **相談窓口や関係機関等の連携の推進**
  - ・ 認知症地域支援推進員による認知症の人やその家族とのネットワークづくり
  - ・ 認知症疾患医療センターや専門医療機関との連携の推進
  
- ⑤ **地域での生活を支える介護サービスの充実**
  - ・ グループホームなどの介護施設の整備促進
  - ・ 認知症高齢者に配慮した在宅系の介護サービスの充実

## （現在、鳥取市が実施している啓発活動事例）

### 「認知症に関する出前講座」

地区公民館・老人会・サロンなど各種団体等からの要請により、地域包括支援センター職員が出向き、認知症を正しく理解していただく講座を開催

### 「認知症サポーター養成講座」（資料は、水色のチラシ）

認知症キャラバンメイトが地域、学校、職場、各種団体等へ出向き認知症サポーター養成講座を開催

### 「認知症予防教室の開催」

- ・タッチパネルの実施
- ・しゃんしゃん体操
- ・歌を歌いながら体を動かす
- ・医師の講演

### 「認知症カフェ」（資料あり）

地域の拠点やつながりをつくるため、認知症の人やその家族、地域住民などが気軽に集まり、専門スタッフに相談できる交流の場として「認知症カフェ」を実施